

林木遺伝資源情報

第5号 - 2 2004.1
独立行政法人 林木育種センター



林木遺伝資源保存林シリーズ No.7

ヒノキ属 *Chamaecyparis Spach* の林木遺伝資源保存林

林木育種センター 遺伝資源部 丹 藤 修

1 はじめに

ヒノキ属の樹種は日本、台湾、北アメリカに6種、このうち日本にはヒノキとサワラの2種が分布し、両種とも日本固有です。ヒノキは福島県以南の本州、四国及び九州に分布し、北限は福島県いわき市赤井岳、南限は屋久島です。ヒノキはスギとともに最も重要な林業用樹種で、多数の精英樹が選抜され、新品種の開発が行われています。最近、新植造林面積が減少傾向にある中、ヒノキの新植面積がスギのそれを上回るようになりました。近年、天然林が著しく減少したことに加え、最近の研究で、古くから行われてきた人工造林の種子源がごく限られた地域のものであったことが分かってきたことから、天然林の遺伝資源を保全する重要性がますます高まってきました。

サワラの天然分布は岩手県以南の本州、九州の一部で、秩父地方、木曽地方に多く、岩手、和歌山、広島、熊本、長崎などの各県に1～2箇所の自生地があります。材は建築材などとしてはヒノキよりも劣りますが、水湿に耐えるので桶類、浴室材として賞用されています。

以下に、ヒノキ属の林木遺伝資源保存林の現況を紹介します。

2 林木遺伝資源保存林の現況

ヒノキ属の林木遺伝資源保存林について、育種基本区別森林管理局（分局）別の設定箇所数と面積を表-1に、設定箇所の位置を図-1に示しました。

ヒノキについては、設定箇所数は13箇所、スギなどに比べれば箇所数は少ないものの、天然分布の北限である福島県いわき市赤井岳から四国、中国地方まで、森林生物遺伝資源保存林に編入された保存林を含めると宮崎県南部にかけて設定され、ほぼ天然分布域をカバーしています。

サワラについては、木曽地方に3箇所設定されており、その内の1箇所はヒノキの林木遺伝資源保存林としても設定されています。

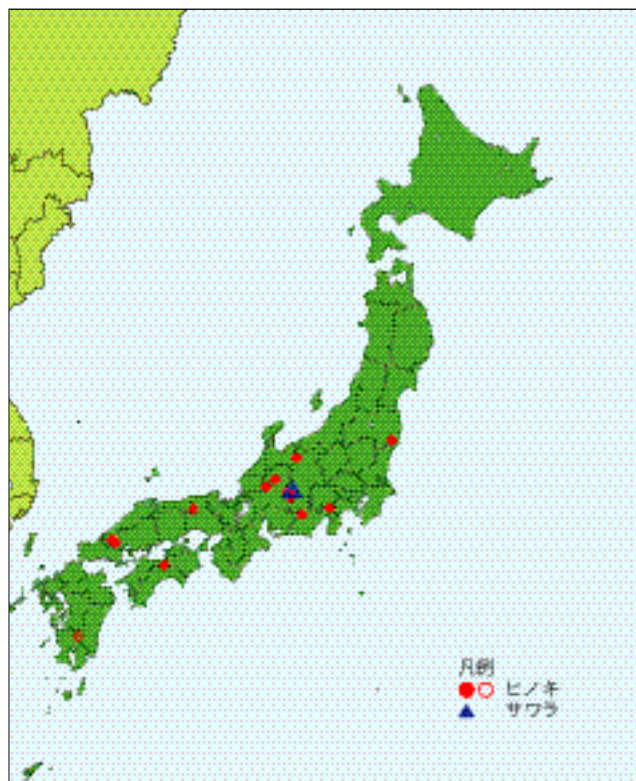


図-1 ヒノキ属の林木遺伝資源保存林位置図

(注) の保存林はH13年4月に新設された霧島山森林生物遺伝資源保存林の一部となった。

表-1 ヒノキ・サワラの林木遺伝資源保存林の設定箇所数と面積

育種基本区	森林管理(分)局	ヒノキ		サワラ	
		箇所数	面積(ha)	箇所数	面積(ha)
関東	関東森林管理局	1	10.6		
	東京分局	2	48.6		
	中部森林管理局	3	163.5	2	66.9
	名古屋分局	2	53.1	1	44.2
	小計	8	275.8	3	111.0
関西	近畿中国森林管理局	4	93.5		
	四国森林管理局	1	208.5		
	小計	5	302.1	0	0.0
九州	九州森林管理局(注)	(1)	(6.79)		
合計		13	577.9	3	111.0
全保存林に占める割合		4.0%	6.3%	0.9%	1.2%

(注) 九州森林管理局の箇所数、面積はH13年4月に森林生物遺伝資源保存林に移行した分を外す。

3 代表的なヒノキ属の林木遺伝資源保存林

以下に代表的なヒノキ属の林木遺伝資源保存林を紹介します。

【お知らせ】 林木育種センターでは、林木遺伝資源を試験研究用に種子、花粉、穂木、苗木などで配布しています。厳密に品種・系統が管理されており、皆様の研究材料として最適です。価格は1点あたり消費税別で3,190円です。詳しい内容や入手方法につきましては、本誌裏面に記載のホームページをご覧ください。メールまたは電話でお問い合わせください。

〔前橋ヒノキ4林木遺伝資源保存林〕

天然分布の北限に設定されたものです。アカマツ、スギ、サクラ類、ミズナラ、カエデ類、シデ類等との混交林となっています。ヒノキの割合は本数で7%、材積で22%です。北限の集団ですが、胸高直径72cm、樹高24mに及ぶ大きな個体もあります。

所在	福島県いわき市 北緯37°05' 東経140°49'	赤井岳国有林63い林小班
地況	面積：10.55ha 標高：220m～430m	温量指数 101 降水量 1450mm/年
林況	立木 ヒノキ：平均胸高直径26cm、平均樹高10m、90本・72m ³ /ha	稚幼樹 ヒノキ：0本/ha



写真 - 1 前橋ヒノキ4林木遺伝資源保存林

〔長野ヒノキ・アスナロ5林木遺伝資源保存林〕



写真 - 2 長野ヒノキ・アスナロ5林木遺伝資源保存林

日本三大美林の一つである木曽ヒノキ林に設定された林木遺伝資源保存林です。アスナロが混交していますが、材積においてはヒノキが90%を占めています。平均樹高は28m、最も高いものは34mで、ヒノキの林木遺伝資源保存林の中では最も樹高が高い林分の一つです。稚幼樹も多くみられ、天然更新が期待されます。

所在	長野県木曽郡上松町 北緯35°43' 東経137°38'	小川入国有林83い、84い、86い、87い、89い林小班
地況	面積：81.10ha 標高：1130m～1285m	温量指数 71 降水量 2316mm/年
林況	立木 ヒノキ：平均胸高直径48cm、平均樹高28m、265本・725m ³ /ha	稚幼樹 ヒノキ：1375本/ha

〔名古屋ヒノキ・サワラ10林木遺伝資源保存林〕

前述した長野ヒノキ・アスナロ5林木遺伝資源保存林とともに木曽ヒノキ林に設定されたものです。県境を挟んだこちら側は裏木曽と呼ばれています。高木層はヒノキとサワラのみで、ヒノキが本数、材積とも90%を占め、平均胸高直径60cm、最大のは92cmと、ヒノキの林木遺伝資源保存林の中では最も太い林分の一つです。

所在	岐阜県恵那郡加子母村 北緯35°43' 東経137°28'	加子母裏木曽国有林88い林小班
地況	面積：44.16ha 標高：960m～1640m	温量指数 56 降水量 2175mm/年
林況	立木 ヒノキ：平均胸高直径60cm、平均樹高22m、170本・491m ³ /ha、サワラ：平均胸高直径50cm、平均樹高25m、20本・44m ³ /ha	稚幼樹 ヒノキ：0本/ha サワラ：0本/ha



写真 - 3 名古屋ヒノキ・サワラ10林木遺伝資源保存林

〔高知ヒノキ20林木遺伝資源保存林〕

四国で1箇所設定されている保存林で、稚幼樹がみられ天然更新が期待されます。高木層にツガ、モミ、スギ、ブナ、ミズメ、ケヤキ、シデ類を伴っています。ヒノキの割合は本数で33%、材積で67%です。

所在	高知県長岡郡本山町 北緯33°48' 東経133°35'	白髪山国有林24に、ほ、へ、と、22は、に、ほ、へ、と、39は、43ち林小班
地況	面積：208.54ha 標高：680m～1460m	温量指数 63 降水量 2568mm/年
林況	立木 ヒノキ：平均胸高直径38cm、平均樹高16m、280本・281m ³ /ha	稚幼樹 ヒノキ：780本/ha